

ラーメン「一蘭」社長ら書類送検 不法就労助長の疑い

2018年3月6日13時34分

とんこつラーメンチェーン「一蘭（いちらん）」で法定時間を超えて留学生を働かせたとして、大阪府警は6日、同店運営会社（本社・福岡市）の吉富学社長（53）や労務担当責任者の女性（39）、店長ら計7人と、法人としての同社を出入国管理法違反（不法就労助長）の疑いで書類送検したと明らかにした。吉富社長については雇用対策法違反（外国人雇用の無届け）の疑いでも書類送検した。

南署によると、吉富社長らは昨年9～11月、大阪府中央区の「一蘭 道頓堀店本館」など2店で雇っていたベトナムや中国からの20～27歳の留学生計10人を、出入国管理法が定める週28時間を超えて働かせた疑いなどがある。最長で週39時間以上働き、月21万円を得た留学生もいたという。また吉富社長は、留学生を雇ったのに名前や在留期間などをハローワークに届け出なかった疑いがある。

吉富社長は、不法就労について「把握していなかったが自分の責任」と容疑を認め、外国人雇用の届け出は「法律を知らなかった」と話しているという。店長らは「サービスを維持するために人手が必要だった」「約500人のアルバイトの勤務を管理できず、確認もできない状態だった」などと話しているという。

一蘭の広報担当は取材に「アルバイトのシフトを把握できていない甘い部分もあった。留学生の労働時間が週28時間を超えないよう、全店を挙げて徹底していく」と話した。

朝日新聞デジタルに掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

Copyright © The Asahi Shimbun Company. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission.